

## 2019 地盤工学会中長期ビジョン

### 本編（大項目）

1. 技術者の資質向上
2. 学術技術の進歩への貢献
3. 社会への貢献
4. 学会の持続的な発展

## 項目のリスト

### 1. 技術者の資質向上

#### 1-1 地盤工学の刊行物の充実

- ①学会誌, **Soils and Foundations** と地盤工学ジャーナルの充実
- ②書籍の効果的出版
- ③基準類の電子出版の促進

#### 1-2 地盤工学分野の情報共有

- ④地盤工学に関する情報と技術の共有
- ⑤電子図書館の充実

#### 1-3 地盤工学の技術者教育

- ⑥教育コンテンツの見直しと充実
- ⑦知識の継承

### 2. 学術技術の進歩への貢献

#### 2-1 地盤工学の進歩と展望

- ⑧他の学協会との交流, 連携強化
- ⑨地盤工学に関わる新分野への取り組み

#### 2-2 研究成果の評価と活用

- ⑩研究成果の効果的活用
- ⑪表彰制度の充実

#### 2-3 国際化

- ⑫国際会議の積極的開催
- ⑬国際交流強化
- ⑭**Soils and Foundations** を活用した国際的情報発信

### 3. 社会への貢献

#### 3-1 地盤工学会の基準制定

- ⑮調査・設計・施工・維持管理に関する基準の制定と公表

#### 3-2 地盤工学を通じた社会基盤の安全の担保

- ⑯防災・減災を通じた地域社会への貢献
- ⑰地盤環境問題への技術的対応

#### 3-3 公益サービスの拡充

- ⑱地盤情報データベースの整備
- ⑲地盤工学にかかわる実務者資格制度の充実
- ⑳次世代技術者の育成への支援
- ㉑学会の社会への情報発信強化

### 4. 学会の持続的な発展

#### 4-1 財務基盤の強化

- ㉒財務構造の改革
- ㉓会費制度の改善
- ㉔公益事業分類の変更

②⑤固定資産と会館

#### 4-2 組織の活性化

②⑥理事体制・代議員制度の再構築

②⑦本部・支部の新しい連携

②⑧多様な人材が活躍できる学会

②⑨マネジメントサイクル(各部・委員会の評価と成果の公表)

#### SDGs との対応

地盤工学会は 17 の持続可能な開発目標(SDGs)のうち、主として以下の項目の実現を担っています。

SDGs の 17 の目標	中長期ビジョンの項目
④教育	技術者教育⑥⑦, 次世代の育成②⑩
⑤ジェンダー	多様な人材の活用②⑧
⑦エネルギー	新分野への取り組み⑨
⑨イノベーション	学術発展の支援⑪と学術情報の公開④②⑪
⑪都市	防災・減災⑱
⑫生産・消費	基準の制定⑮
⑬気候変動	地球環境問題への対応⑱
⑰平和	国際交流⑬
⑰実施手段	(全体)①～⑲

## 本編

### 1. 技術者の資質向上

#### 1-1 地盤工学の刊行物の充実

目標① 学会誌，Soils and Foundations，地盤工学ジャーナルなどの充実

学会の基幹雑誌である学会誌は電子出版の強みを生かして，内容の充実を図るとともに，速報性を高めた編集を目指す。

Soils and Foundations は地盤工学に関する国際一流ジャーナルとしての地位を確実にさせる。

地盤工学ジャーナルは国内向け学術雑誌としての地位をより確実なものとする。

→公益出版部

目標② 書籍の効果的出版

今後の情報メディアの在り方を踏まえて従来の出版形態にこだわらない書籍出版を効果的に進めていく。また，過去の学会刊行物の取り扱いを検討し，電子図書館に収集するなどして，古い書籍であっても閲覧できる体制を構築する。

→公益出版部

目標③ 基準類の電子出版の促進

学会が制定する基準およびその解説の電子出版を推進するとともに，適正な販売価格を検討する。

→基準部

#### 1-2 地盤工学分野の情報共有

目標④ 地盤工学に関する情報と技術の共有

研究発表会，シンポジウム等をより活性化し，情報・技術の公開と，技術者相互の情報共有を図る。

→調査研究部

また，情報発信サイトとしての Web 等の活用を見直し，学会の情報発信を推進する。

→総務部

目標⑤ 電子図書館の充実

基幹雑誌，書籍，基準類も含めた情報発信の基軸となる電子図書館を充実させ，地盤工学ライブラリーとしての機能を果たさせる。

→調査研究部

#### 1-3 地盤工学の技術者教育

目標⑥ 教育コンテンツの見直しと充実

教育メディアとしての講習会，書籍，Web などの在り方を再検討し，ニーズに即したコンテンツを提供できるようにする。

→会員支部部，公益出版部，総務部

目標⑦ 知識の継承

シニアの会員の経験と知識を生かす場を広げていく。

→総務部

## 2. 学術技術の進歩への貢献

### 2-1 地盤工学の進歩のための方策

目標⑧ 他の学協会との交流・連携強化

関連分野を含む他分野との交流・連携を深め、地盤工学のさらなる発展を目指す。

→**会員支部部**

目標⑨ 地盤工学に関わる新分野への取り組み

社会のニーズに対応するように、地盤工学に関わる新分野への取り組みを推進する

→**調査研究部**

### 2-2 研究成果の評価と活用

目標⑩ 研究成果の効果的活用

研究成果が学術分野全体や社会基盤分野への貢献に直結できるような方策を検討する。

→**事業企画戦略室, 総務部(広報)**

目標⑪ 表彰制度の充実

表彰制度を常に見直し、様々な観点から個人・組織の地盤工学への貢献を称えられるようにする。重要な成果の表彰を通じて社会・学術分野への貢献を広く周知する。

→**総務部**

### 2-3 国際化

目標⑫ 国際会議の積極的開催

我が国の研究成果の公表と国際交流のさらなる活性化を目指して、国際会議などを戦略的に企画・運営する。

→**国際部**

目標⑬ 国際交流強化

これまで築いてきた人的ネットワークをもとに、国際地盤工学会アジア地域の1メンバーとしてイニシアチブをとりながら国際的な交流を強化する。

→**国際部**

目標⑭ Soils and Foundations を活用した国際的情報発信

国際的な学術情報発信媒体としての Soils and Foundations を地盤分野のトップジャーナルとすることを目指し更なる世界展開を進める。

→**公益出版部**

### 3. 社会への貢献

#### 3-1 地盤工学会基準の制定

目標⑮ 調査・試験・設計・施工・維持管理に関する基準の制定と公表  
実務的な需要と新しい知見・新技術を判断材料とし、外部資金を導入しつつ新規基準を制定する。  
→基準部

#### 3-2 地盤工学を通じた社会基盤の安全の担保

目標⑯ 防災・減災を通じた社会への貢献  
各機関と連携して、災害調査等の活動を通じて防災・減災技術を整理・研究し、社会への防災・減災の提言を行う。  
支部と本部の連携、他学会との連携、自治体との災害協定の実効性を見直し、必要に応じて、災害時のシステム作りを検討する。  
地域地盤・災害研究を推進し、その成果を公開する。  
→総務部

目標⑰ 地盤環境問題への技術的対応  
地盤環境問題に対する学術的・技術的な対策を整理、研究し、提言を行う。  
→調査研究部

#### 3-3 公益サービスの拡充

目標⑱ 地盤情報データベースの整備  
地盤情報データベースのデータの信頼性担保と標準化を進め、全国の地盤情報データベースの共通化を図る。  
→調査研究部

目標⑲ 地盤工学にかかわる実務者資格制度の充実  
地盤品質判定士協議会を支援し、判定士認定者の数と質を確保し、判定士の活躍の場を広げる。  
→会員支部部

目標⑳ 次世代技術者育成への支援  
次世代技術者の育成を目指して、小、中、高等の教育機関との連携を図る。  
→総務部

目標㉑ 学会の社会への情報発信強化  
Webサイトを活用し、社会への情報発信を推進する。  
→総務部

## 4. 学会の持続的な発展

### 4-1 財務基盤の強化

目標㉒ 財務構造の改革 慢性的な赤字体質となっている現状を脱却するために財務構造を抜本的に改革する。 →会員の減少(特に若手会員), 書籍売り上げの低迷, 会計処理の複雑化, 委員会の見直し, 事業の見直し, 研究発表会での収益の在り方, 資格事業の健全運営, JIS・ISOへの対応, 外部資金の調達 →総務部
目標㉓ 会費制度の改善 会員構成の変化, 特別会員からの期待, 学生会員からの期待等を考慮し, 財務基盤を安定化できるように会費制度を改善する。 →総務部, 会員支部部
目標㉔ 公益事業分類の変更 現在, 公1~公4に分かれている公益事業の在り方を検討し, 公益事業の分類を変更するとともに, 学会の在り方に沿った公益事業の在り方を検討する。 →総務部
目標㉕ 固定資産と会館 会館建設から15年がたち, 老朽化も目立ち始め, 修繕費が予想以上にかさむ状況となっている。現在の財政状況を鑑み, 会館と固定資産の在り方について抜本的に検討する。 →総務部

### 4-2 組織の活性化

目標㉖ 理事体制・代議員制度の再構築 効果的な意志決定組織となるような理事体制の構築を検討する。 全会員の代表者たる代議員の責務を周知するとともに, 代議員の選出方法の改善を検討する。
目標㉗ 本部・支部の新しい連携 本部と支部の組織や業務分担を見直し, 本部と支部が連携して効率的に学会活動を進めていくことを図る。 →会員支部部, 総務部 災害調査・地域特有の課題解決など地域と密着した活動を, 本部と連携しつつ, 支部主導で推進する。 →各支部
目標㉘ 多様な人材が活躍できる学会へ 各世代のより多くの会員が学会活動に積極的に参画できる風土づくりを検討する。 個人会員, 及び特別会員の学会活動参画に伴う会員メリットの拡充を図り, 多くの会員が学会活動に積極的に参画できるようにする。 →会員支部部, 総務部主導?
目標㉙ マネジメントサイクル(各部・委員会の評価と成果の公表) 本部・支部の各部・委員会活動に対するレビュー制度を整備し, 学会活動の健全性を高めていく。 →総務部